

日韓知的障害者サッカーフェスティバル

静岡県ハンディキャップサッカー委員会

〒410-0062 沼津市大岡 3155-9 勝又将也宅内 静岡県ハンディキャップサッカー委員会

助成事業の概要

開催目的：静岡県の知的障害児、者のスポーツ（サッカー）参加促進、技術向上を図る。

地域のスポーツ（サッカー）に励む知的障害児、者の社会参加を促進するとともに、夢を育む。

開催日時 平成25年5月25日（土）～5月28日（火）

開催場所 静岡県浜松市、掛川市

内 容

○高校、静岡県選抜アンダー20及び仁川特別市選抜とのサッカー交流

○静岡県選抜アンダー20と仁川特別市選抜との「夢」の交換

○静岡県選抜アンダー20と仁川特別市選抜との公式試合

○仁川特別市選抜による地域の特別支援学校及び福祉施設の見学

事業の成果

事前に、特別支援学校等に告知をし、選手選考会を行なった。そのため、事業についてPRができた。

選考会で選出された選手は、とても意欲的であり誇らしげであった。更に落ちた選手もこれからの目標にできたことが良かったと所属チームから報告があった。4月の選考会から3回ほどの練習であったが、大変充実した練習ができた。何よりも、試合に出たいということで自分の生活をきちんとしようという姿勢が見られたことは、大きな成果

である。また、考える、判断するということが苦手であるが、今回の自分の夢を考えるということで、自分のやりたいこと、好きなこと、目標等考える中で、自分のことを理解するきっかけとなった。

一般の高校生と、言語が通じない障害者同士が、サッカーを通じて交流したことは、高校生にとっては障害者を理解することにつながり、両国の選手にとっては、一緒にできる、楽しめるという経験が自信につながり、社会参加への意欲に繋がると考える。

レセプションでの「夢」の発表は、感動を巻き起こし、出席者から今後のボランティアの申し込みがあった程である。「仕事に就きたい」、「仕事を上手になりたい」、「サッカーを上手になりたい」、「国の代表になりたい」、「旅行に行きたい」、「両親を大切にしたい」など当たり前の生活をしたいという願いが伝わってくる。その思いは両国とも変わらないことを確認した。このような交流をとおして夢を語り合うことは、前向きに生活すること、目標を持って生活することの契機にできると確信した。

試合では、両チームの精一杯が表現されていた。どちらのチームにも良いプレーには、大きな拍手があったことが印象的である。

役員、支援者を中心に、福祉施設、学校を見学できたことを、今後の支援に生かせると語っていた。

成果の広報、公表

新聞に取り上げられたことにより、「知的障害者

もサッカーを行っている。しかも海外との交流試合ができるんだ。」という広報ができた。実際に、学校の生徒からも、「僕も代表になりたい」と訴えてきた方もいると聞いている。また、少年の指導者から、指導に関わりたいという申し出もあった。

「夢」の交換については、パンフレット、報告書を福祉施設、特別支援学校配布時に、特に注目していただけるように別紙をつけた。

また特別支援学校では、キャリア教育が充実してきているので、その副教材としての活用を依頼するとともに、関係職員へ直接依頼したので、今後実践されるものと考えている。

特に選手の所属チームには、選手の活躍、感想を取りあげるように指導した。

■ 今後の展開

来年度は仁川特別市で行う予定である。静岡県の手が特別支援学校の高校生を中心としていることから、8月下旬で調整をすることになった。今年度は、高校生を交えた交流を実施したが、今後は互いに活動を共にするバーベキュー等も試みたいなどの意見交換を行っている。夢の交換については、もう少し、「生活」、「家族」、「仕事」など具体的なテーマで発表し、互いの環境を知りあうことに発展させたい。また互いの環境について意見交換を行うなど場も徐々に設定し、更に深く交流するとともに、自己の生活を振り返る機会としたい。

また今年度は、報告会を持つことができなかったが、報告会を持つことにより、多くの方にこの事業について理解を促したい。また、この選手たちが成長して、サッカーを教えたり、支えたりする仲間になるよう目的にしようと仁川特別市の役員と話し合った。